

令和7年1月19日

新年恒例 薬王院の初詣とお神酒奉納

モットーとは:個人や団体が大切にする信条や原則『適時、適品、適量』この適量と真っ向勝負です



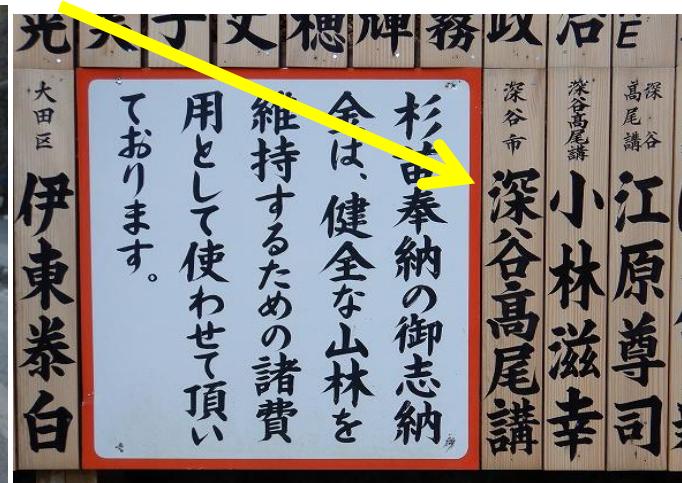
来年は皆70歳超え、103万の壁より80歳の壁に果敢に挑戦



ケーブル降りて、薬王院のお詣り、奉納の木札が延々と道なりに吊り下げられてます



北島三郎、北山たけしに續けと深谷高尾講として御志納金を納めております



仁王門から御本堂への勾配の階段を登って御本堂に向かいます



煙を顔 頭 体にかけ厄払いをしております、それでもこの人達は、誰からも煙たがれてます



おみくじも相変わらず人気、**大吉 大吉 大吉の連呼、連呼** この人各神社に引っ張りだこ



ここから運開除厄、1根不浄をなくし六根清浄めざします



懇願成就だけを期待



高尾山頂上から富士山はこのあたりで見ることができます



赤のギンガムチェックのシートが敷かれ、鍋2個、熱燗、焼き物バーナー点火



雑木林の枝に高尾山一丁平『鍋まつり』のぼりが吊り下げられました



本日の肉1,800g(昨年1,200g)蒲鉾、椎茸の焼き物スタンバイ、締めに餅とうどん(6玉)控えてます



先ずは生ビールで『かんぱあ～い、お疲れナマです』



竹安さん、それは駅の立ち食いうどんスタイルでっせ



肌と肌を寄せ合い、肩組んで人類皆兄弟



血と涙の食材、酒の持ち込み、足るに足りんことはありませんでした



ジュリーと鶴瓶のどや顔勝負、どっちもどっち



凍死ならお家存続、餓死ならお家断絶にもなる能登深谷家、餅とうどんだけは多かった



帰りのバッグには若干の余裕もなく、餅(12個)とうどん6玉が所狭し持ち帰りました

